

千葉市少年軟式野球協会 大会運営規定 特別規定細則

競技者必携の学童部規則の対比、他

2025改定

大会運営規定に関する補足(番号は大会運営規定の項目番号を示す)

- 2 選手登録後の新規入部者について (2021追加)
部員促進の為 試合におけるベンチ入りを認めることがあるが
グラウンド内への出入りは 禁止する。
なお、当該試合前に、大会本部・球責・審判団・相手チームに報告
了承を得るものとする。
- 13 指導者のヘルメット (2024追加)
選手と同じ基準のヘルメットとする。
- 14 試合中の指導者の捕手 (2023追加)
 - (1) 指導者の捕手を認める。(ブルペンを含む)
なお従来通り、選手の代理捕手でも構いません。
(指導者がマスク未着用で立って捕球する場合でも、準備投球にカウントする) (2024追加)
(代理捕手は、準備投球(1球残し)後のキャッチボールは認めない)
 - (2) ただし次の試合チームがブルペンで投球練習する際、指導者の捕手は認めない。
- 17 指名打者ルール(DH制)に関する運営補足 (2024追加)
 - (1) メンバー表がDH制用でない場合、DHと投手は以下のように記載する。
DH: 入る打順の位置の欄に“DH”と記す。
投手: 控え選手のNo.10の氏名の欄に、“P 氏名”を記す。(氏名の前にPを記す)
 - (2) 混乱防止のため、DH制を使用する際は、トスの際に口頭で報告すること。
 - (3) DH制をとる場合、トラブル防止とスムーズな運営のため、DH制が消滅する交代は、
“新たなメンバー表”に交代選手のみ記載の上、4部を球審に提出すること。
(4部は球審、球責、相手チーム、放送用とする)
- 28 死球などに対する安全対策について
 - (1) 打者が頭部又は心臓部に死球を受け取ったときには臨時代走の処置を行うこと。
また塁上の走者が負傷した場合も、臨時代走の処置を行うこと。
 - (2) 臨時代走の対応後、すぐ攻守交代になった場合は、適宜治療時間を取り選手の状態を
確認すること。 (2024追加)
 - (3) ボークの投球が頭部等死球になった場合で、ボーク適用により打撃を継続するケースでは
治療時間を取り選手の状態を確認すること。なお当然、監督の判断で代打でも構いません。
(注: 打撃を継続するケースとは、全走者がフォースの状態でない場合) (2024追加)
- 34 バット及び投手のグラブについて
 - (1) 一般用バットのうち、打球部にウレタン、スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの
使用を禁止する。なお、一般用バットであっても、上記以外の木製・金属製・カーボン製・
複合(金属 カarbon)バットについては、使用制限を行わない。
注) 少年用バットの使用制限は行いません。 (2025追加)
 - (2) 投手のグラブについては、捕球面・背面・ウェブは2色まで可とする。
ただし、白色/灰色/PANTONEの色基準14番より薄い色の使用は禁止 (2025追加)

競技者必携「競技運営に関する連盟特別規則」に関する補足(番号は競技者必携の項目番号を示す)

- 1 正式試合
 - (1) 夏の高温な天候の際は、球責と球審との判断で、3回裏に5分(ロスタイム)の休憩をとる。
(低学年大会は、基本2回裏の休憩とする) (2024追加)
※休憩時間を取った後に守備につく。(例: 5分休憩後にベンチから出る)
 - (2) 守備時間が長い場合(概ね15分) 給水タイムを設ける。ロスタイムなし (2024改定)
※特別な状況が発生した場合には、球責の判断でロスタイムとする場合がある。

- 2 延長戦
タイブレークとする。
サドンデスとは 同点の場合の延長戦で 先取点が 勝者の意味
野球は 表・裏の試合である為 タイブレークを引用する。
- 3 タイブレーク方式
継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者、
その前の打者を三塁走者とする。ワンアウト 満塁の状態にして 続行する。
投手の投球制限を遵守して行う。
一回で勝負がつかない場合は もう一度タイブレークを実施する。
それでも 勝敗がつかないときは、抽選とする。
決勝戦の場合は、勝敗が決するまで タイブレークを続行する。
- 7 投球数の管理運用 (2023追加)
投球数の管理運用は、別紙「投球数記録シート」による。
- 10 変化球に関する事項
＜ペナルティ＞
注意したにもかかわらず、同一投手が同一試合で再び変化球を投げたときは
その投手を交代させる。その投手は他の守備につくことはできる。
但し、その試合には投手にはなれない。

競技者必携「試合のスピードアップに関する事項」の補足(番号は競技者必携の項目番号を示す)

- 1 守備側のタイムの回数制限
 - (1) 監督が投手のもとへ行く回数制限
1試合に投手のもとへ行ける回数は3回以内とする。
なおタイブレークは、1イニングに攻守1回ずつ行くことができる。
 - (2) 交代した投手が、他の守備位置に付き、再度投手にもどり、また他の守備に戻るができる。
ただし同一イニングでは3度目の投手には戻れない。
(注)競技者必携とは異なる。 (2024追加)
 - (3) 守備側のタイムの回数制限
捕手または内野手(外野手含む)のタイム回数は、3回以内とする。
野手(捕手含む)が投手のもとへ行った場合、そこへ監督が行けば
双方一回として数える。逆の場合も同様とする。
- 2 攻撃側のタイムの回数制限
1試合に3回以内とする。
なお、タイブレークは、1イニングに攻守1回ずつ行くことができる。
- 3 タイムは、1分以内を限度とする。
守備側(攻撃側)のタイム中に 攻撃側(守備側)が指示を与えることができるが
長引ければ 1回とカウントする。判断はタイム側の輪が解けた時とする。
- 7 投手の投球時間 (2024追加)
「走者がいない場合には12秒以内、走者がいる場合は20秒以内」の規定は適用しない。
(ただし、その趣旨から投球時間のスピードアップを図ること)

競技者必携「競技者のマナーに関する事項」の補足(番号は競技者必携の項目番号を示す)

- 1 捕手が投球を受けたときに意図的にボールをストライクに見せようとミットを
動かす行為を禁止する。 (2024追加)
- 9 投球時の発声について (2023追加)
投手が投球動作を開始したら、投手の動揺を誘うような声を発しない。

競技者必携「用具・装具に関する事項」の補足(番号は競技者必携の項目番号を示す)

- 2 スパイク （2023追加）

スパイクは全員同色でなくても構わない。
（ただし、過度に派手な色は望ましくない。）
- 3 サングラス （2023追加）

サングラスは大会本部の承認なしに使用できる。ただし投手はミラーレンズの使用はできない。（2024改定）

また大人はサングラスの使用はできない。ただし目の病気等の場合には、大会本部に報告のもと使用できる。

その他大会運営に関する事項

- 1 次打者について (2023追加)
 - (1) その回の先頭打者は、投手の準備投球が終わるまで次打者席で待機すること。
 - (2) 対戦中など準備投球時以外は、安全上素振りを不可とし、次打者席で座って待機すること。(2024追記)
- 2 ベンチ内への持ち込み用具について (2024追加)
 - (1) ベンチ内への持ち込み用具は、バットケース、ヘルメット掛け、クーラーボックスを認める。
白線で区切られたベンチでは、選手の安全上、上記の用具等はベンチ奥に置くものとする)
 - (2) 夏の高温な天候の際、屋根のないベンチには TENT を張ることを認める。
- 3 メンバー表の記載要領について (2024追加)

DH 制などを反映した新しいメンバー表ができるまでの暫定措置として、以下の記載要領とする。

控え選手名

No.10 DH を採用する場合は、投手の氏名を記す(氏名の前に P と記す)
DH を採用しない場合は、空白とする(何も書かない)

No.11 27 番コーチ名を記す。また左枠外(11 の左横)に“コーチ”と記す。

No.12～ 控え選手は、メンバー表の右側欄の No.12～に記す。

以上